



福崎町立
柳田國男・松岡家記念館
〒679-2204
神崎郡福崎町西田原
1038の12
電話：0790-22-1000

柳田國男の体格

記念館の大切な収蔵品のひとつに「衣冠束帯」があります。大正4年、柳田國男が貴族院書記官長を務めていた時に大典と呼ばれる天皇の即位式とその後に行う大嘗祭の一連の儀式に参列した時に着ていた装束です。

この衣冠束帯の実物を見ていただくとは分かりますが、意外と大きく感じます。和服の特徴である大きな袖の部分と、とりわけ肩幅が広く作られており、それらにより大きさを印象付けています。この装束を見られた

来館者も口を揃えて「國男さんは大きい人だったのね」と言われています。



意外と大きい? 「衣冠束帯」

では、実際はどうだったのでしょうか。

実を言うと、柳田國男自身が並外れたほどの体格の持ち主であったという明確な記録は残っていません。ただ、記念館ではさまざまな写真パネル

を展示しており、そこである程度の体格をうかがうことができます。その写真ではどうも一般的な体格をしているように見えます。

明確な記録が手元にあればはつきりするのですが、残念ながら今は想像に任せるしかありません。ただ、民俗学の研究

ちょっと辻川散策してみませんか?

辻川山

辻川地区の北側に高い丘のような山、辻川山があります。この記念館も辻川山のもとに建っています。辻川山は

のために日本各地を回っていた体力の持ち主です。それなりに体格はしっかりしていたのかもしれないね。

右から映丘・母・國男



近くの妙徳山、大門宮山と合わせ「ふくさき三獅子山」と呼ばれています。その理由は遠くから見るとこれらの山の姿がまるで3匹の獅子が伏せているように見えるからだそうです。



辻川山からの展望

この辻川山は10分程度で山頂まで登ることが出来る山なのですが、周囲にさえぎるものがないので見晴らしがよく、辻川や町内を一望することが出来ます。その見晴らしの良さから國男が帰郷した際には山へ登り、町並みの変化を眺めていたようです。



記念閑話

ある日のこと。「画稿を1点追加で貸していただけませんか?」と電話が。電話の相手は「松岡映丘展」を主催している神戸新聞の担当者さんでした。姫路で行われていた「映丘展」の次の会場である島根県立美術館では新たにその画稿を追加して展示したいとのことでした。

早速手続きを済ませ、島根での展示が始まるま

で画稿を搬出することになりました。

資料の貸し出し作業では必ず借りる側、貸す側双方の担当者が立会いいます。そして作品1点1点の状態を細かく確認しながら記録していき、その後、借りる側が責任を持って資料を梱包しトラック等に積み込みます。

搬出日当日はちょうどトライやる・ウィーク期間中でしたので、記念館と歴史民俗資料館で受け入れていた中学生に貸し出し作業の様子を見学してもらいました。



画稿搬出作業の様子

「松岡映丘展」は島根県立美術館にて7月18日まで開催されています。